



令和 2 年度

小規模多機能型居宅介護 サービス評価

小規模多機能ホームおあしじ南谷山
鹿児島市小松原 2 丁目 23 番 30 号

電話 099-267-6611

FAX 099-267-7311

メールアドレス minamitaniyama@medicorp.co.jp

令和 2 年 3 月 29 日

◆自己評価

事業所自己評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (事一①~⑨)

◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)

1. 初期支援(はじめのかかわり)

メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中
堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0	7	3	1	11

前回の改善計画

- ・ケアマネや管理者以外の職員が担当者会議に出席したり、事前に面会の機会が持てるようにする
- ・介護記録については通常リーダー職員を中心記載しているが、利用開始間もない頃は特に、関わった職員が対応した場面の様子や気づいた点を意識的に記録に残すようにする

前回の改善計画に対する取組み結果

担当者会議がホームの人員の都合に合う場合にはできるだけ、利用前の会議にケアマネージャー、管理者以外も参加できるように調整できていた。記録については利用開始時には特に意識的にスタッフ全体が記録を残していた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	0	8	2	1	11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	1	9	0	1	11
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができますか?	3	7	0	1	11
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	3	5	2	1	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・関わったスタッフが支援経過記録に記録をしてくれている。
- ・ケアカンファレンス、ミーティング等で利用者状態を把握することができている。
- ・利用者様が慣れない時期には積極的にコミュニケーションを取り、また、他利用者との会話がうまくいくように橋渡しができている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・担当者会議にケアマネージャー以外が参加する機会が少ないので、スタッフが家族の本音を聞く機会がない。また、そのため、利用開始時に立ち回りがわからないことがある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・コロナ禍の中、大人数での会議は難しいうえ、担当者会議にスタッフを2名以上参加させるのは人員的に難しい為、できる限り、ケアマネージャー、管理者が利用前の担当者会議の日程をスタッフが参加しやすい時間に調整を行う。
- ・可能であれば、新規利用者様に利用前に体験利用を行っていただき、情報収集に努める。
- ・新規利用者情報を利用前にしっかりと確認し、特に利用当日には朝のミーティングの際に再度の情報、対応の確認を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)

2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）

メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中
堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人數）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2	8	0	1	11

前回の改善計画

- ・令和2年1月から記録様式が変更され、利用者ごとの記録の中に「達成すべき目標」が記載されるようになったことで、記録の際に確認することができるので、個々の利用者の目標を意識しながら日々のケアに臨むようにしていく

前回の改善計画に対する取組み結果

記録用紙に記載されている「達成すべき目標」を確認することができるようになった為、利用者個人の目標を日々確認することができ、利用者の目標を意識してケアを行う事ができていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人數）
①	「本人の目標（ゴール）」がわかつていますか？	2	8	0	1	11
②	本人の当面の目標「～したい」がわかつていますか？	3	7	1	0	11
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	0	6	5	0	11
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かせていますか？	1	5	4	1	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・経過記録用紙に達成目標が記載されていることで目標を理解することができ取り組めている。
- ・日々のかかわりの中で気づきがあれば担当ケアマネージャーに報告し、ミーティング、ケアカンファレンスでも発言できている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・自分の担当以外への関わり、関与が薄く当面の目標を目指した日々のかかわりが意識的にできていない。
- ・達成目標は理解できているがそれが本人の思いと家族の思いにずれがあるのでは感じることもあり本人のやる気、モチベーションをあげるための声かけ、関わりに戸惑うことがある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・ケアカンファレンス、ミーティング時に本人の思いを全体で把握、共有し統一した関わりを行っていく
- ・ミーティング、ケアカンファレンス時に担当以外のスタッフにもできる限り関わった内容を発言してもらい、担当以外のスタッフにも個人への関わりを強めることが出来るようになる。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)
3. 日常生活の支援	メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中 堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	7	3	1	11

前回の改善計画

- ・毎月開催のケアカンファレンスの進め方については全員を一律に行うのではなく、担当利用者の課題を選択し討議を深められるようにする
- ・利用者の地域における暮らしの把握に努め、担当利用者の「軒下マップ」の作成ができるようにする

前回の改善計画に対する取組み結果

- ・コロナ禍の中、担当ケアマネージャー以外が地域に出ていくことが難しく、また、軒下マップに対する意識が低く、新人職員への説明も不足していた為、軒下マップを担当ケアマネージャー以外が記載することはなかった。
- ・ケアカンファレンス時には特に課題のある利用者様へ時間を割くことで討議を深めることができていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	0	5	4	2	11
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	5	5	0	1	11
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	0	8	2	1	11
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2	8	0	1	11
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	1	8	1	1	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・ケアカンファレンス等で全員一律で確認を行わず人数を絞って行うことで本人の状況を把握しやすく適切な介護が出来ている。
- ・ケアカンファレンス、ミーティング時に利用者様の変化等に気づいたら発言することで全体で共有できている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・業務に追われ情報の読み込み不足から利用者の以前の暮らし方が10個以上把握することができない
- ・利用者様とゆっくりと話す時間が取れず、本人の気持ちに寄り添うことができないこともある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・初回のカンファだけでなく以前の暮らし方を確認する機会をケアカンファレンス、ミーティング時に作る
- ・送迎時の車の中やバイタル測定、入浴介助の際にできるだけ利用者様に話かけることでコミュニケーションをとれる機会を増やす

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中
堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	前回の課題について取り組めましたか？	0	3	5	3	11

前回の改善計画

- 利用者を取り巻く資源に対する意識をもち、日常的に「軒下マップ」への書き込みを行うようにする

前回の改善計画に対する取組み結果

- 地域といつても鹿児島市の中、多くの地域があるため、担当ケアマネージャー以外が地域の資源を把握することは難しく、また、地域資源を活用しないといけない事例がなかったため、地域資源に対する意識をもつことが出来ていなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？	0	8	2	1	11
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	0	5	4	2	11
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	0	4	6	1	11
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	0	2	6	3	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- 必要な方に対しては地域資源を活用できていた（担当ケアマネージャーが活用していた）
- 日常的に観察することで人間関係は理解できている。
- 自分の担当に対しては理解、把握できていることが多い。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- 直接関わりのない時間の様子については詳しくは理解できていない。
- 本人と地域の関わりを支援する方法がわからず支援できていない。
- 軒下マップに対する意識が低く、殆ど書き込みを行っていない。
- 自分の担当以外への理解が薄い。
- 幅広い地域に住んでいる全部の利用者の地域資源を担当ケアマネージャー以外が把握するのは難しかった

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- 送迎時にご家族様と会う機会の際に、積極的に自宅での情報や近所のことを聞く。
- ケアカンファレンスの際に、軒下マップの確認を行い、全体で書き込んでいく。
- 担当ケアマネが積極的に新しい情報を知り得た際には記録に残すだけでなくケアカンファレンスで改めて報告する

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中 堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	0	7	4	11

前回の改善計画

- 利用者を取り巻く、地域の資源について把握するよう努め、地域を含めた支援を行う

前回の改善計画に対する取組み結果

- 地域資源を活用する事例が少なく概ねホーム対応での支援を行っていた(担当ケアマネージャーが地域資源の活用は行っていた)
- 地域資源に対するスタッフの意識が少なく地域資源の把握が担当ケアマネージャー以外できていなかつた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	2	7	2	11
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	7	1	1	11
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	1	9	0	1	11
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができますか?	3	6	1	1	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- 必要な方への地域資源を使った支援ができている。
- ニーズに応じて必要なサービスを適時提供できている。
- しっかりと利用者様の状態を引き継ぎ等で把握することで状態、ニーズに合わせた柔軟な支援できている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- 必要時の臨機応変の対応はできているが、それが利用者様の思い、ニーズではなくご家族の都合、思いでの対応であることが多い。
- 地域資源の活用はケアマネージャーが行っているため、使っていてもスタッフが理解できていないことが多い。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- 地域資源とは何か、地域資源を理解、活用することの必要性について時間を作りスタッフ全員が理解できるようにする。
- ご家族様の思いということにスポットをあてて話し合いを行う機会を作る

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)

6. 連携・協働

メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中
堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	0	1	7	3	11

前回の改善計画

- ・日程の早めの調整を行い、必要な会議や地域行事へより多くの職員が参加できるよう配慮することで、事業所内にとどまらない支援者としての幅を広げる機会を持てるようになる

前回の改善計画に対する取組み結果

- ・コロナ禍の中、地域行事、会議に参加することが管理者以外は全くできなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	1	2	5	3	11
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	1	0	0	10	11
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	0	3	8	11
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	1	2	8	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・人的余裕があるときは、会議の場にケアマネージャー以外も参加できていた。
- ・受診時、自宅往診時の付き添いを通して主治医との直接的な関わりができる。

いない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・コロナ禍の中、地域イベント、自治体との会議が殆ど行われず、管理者位しか参加できていない。
- ・コロナ禍の中では必要時以外の地域住民の訪問はほとんどなかった。
- ・人的な余裕がなく会議の場に参加がケアマネージャー以外の参加が難しかった。
- ・訪問看護や福祉用具担当者が参加する会議にケアマネージャー以外を参加させるために、ケアマネージャーが休日出勤をすることもあった。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・日程の早めの調整を行い、必要な会議や地域行事へより多くの職員が参加できるよう配慮することで、事業所内にとどまらない支援者としての幅を広げる機会を持てるようになる

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)

7. 運営

メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中
堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	4	6	1	11

前回の改善計画

- ・職員会議等では主体的に参加発言し、より良い事業所運営に全員が関わるようにする
- ・運営推進会議や地域の方々との交流の機会を通し、地域のニーズや事業所への要望を伺い、また利用者、ご家族からのご要望・意見の把握に努め、常に事業所の運営改善に努める

前回の改善計画に対する取組み結果

- ・コロナ禍の中、運営推進会議が開催できず、また、地域のカフェ開催機会が少なかった為、参加することが出来ず、地域のニーズの把握や要望を把握することが出来なかつた。
- ・職員会議での発言は概ね決まった人が発言する傾向が強かつた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?	1	4	4	2	11
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	5	4	1	11
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	2	5	4	11
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	0	5	6	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・利用者、ご家族の意見について所長、ケアマネージャーにしっかりと伝える会議等で全体共有することができている
- ・地域の清掃活動や資源回収等の最低限の地域との共同取り組みには少人数であるが参加できていた。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・コロナ禍の中で運営推進会議が一度も開催できず地域の方からの意見や苦情を頂く機会がなく運営に反映できなかつた。
- ・人的余裕がなく、地域の取り組みへの参加が管理者だけになっている。特に勤務時間外の地域の取り組み等には管理者以外は参加できていない。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・職員会議の際にはできるだけ、多くのスタッフからの発言ができるように発言の機会を意図的に作る
- ・運営推進会議や地域の方々との交流の機会を通し、地域のニーズや事業所への要望を伺い、また利用者、ご家族からのご要望・意見の把握に努め、常に事業所の運営改善に努める

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)
8. 質を向上するための取組み	メンバー	松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中 堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	6	4	1	11

前回の改善計画

- ・小多機ホームの地域での役割りや質の向上を目指して他事業所との交流や学習の機会に、より多くの職員が参加できるような体制や日程の調整を図る
- ・「ひやりはっと」報告の意識づけやミーティング等での活用など、本来のリスク予防対策としての取組みが継続・定着できるような工夫を行う

前回の改善計画に対する取組み結果

- ・コロナ禍の為、集団での交流会や研修には参加できなかった（少人数の交流には参加し業務見直しに繋がった）。ヒヤリハットの報告の意識づけは一部のスタッフには浸透していたがスタッフ全員と浸透できずヒヤリハットの報告件数は少なかった。ヒヤリハット報告についてはミーティング、ケアカンファレンスを通じて予防対策を検討し取組んでいた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人數)
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	0	10	1	0	11
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できますか	0	4	2	5	11
③	地域連絡会に参加していますか	1	0	0	10	11
④	リスクマネジメントに取組んでいますか	0	8	2	1	11

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- ・職場内の研修には概ね参加できている。
- ・個人でスキルアップの為の研修に参加しているスタッフもいる。
- ・ヒヤリハットを活用し、リスクマネジメントに取組めている。事故発生時にはすぐにミーティングで対策をたて職員会議で全体での確認を行っている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ・コロナ禍の為、外部研修にはスタッフが全く参加できていない。
- ・人員的にも余裕がなく外部研修には参加できていない。
- ・原因不明の傷等が利用者にある時があり、予想での対策しか策定できないことがある。
- ・ヒヤリハットについては報告件数が少なかった（ヒヤリハットの意識づけが浸透していない）

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

- ・小規模多機能ホームの地域での役割りや質の向上を目指して他事業所との交流や学習の機会に、より多くの職員が参加できるような体制や日程の調整を図る
- ・ヒヤリハットの意識づけの為に、ケアカンファレンスや職員会議時に毎回、ヒヤリハットについて意識づけを行う
- ・内部研修の充実（外部からの講師を依頼しての内部研修を行う）

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和 3年 1月 29日 (19:00~20:00)
9. 人権・プライバシー	メンバー 松崎 大川内 天野 山下 猿楽 栄村 岩重 立中 堂地 下満 松村

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	9	1	0	11

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の為、安全のため、と思って発する言葉など「言葉による拘束」を実施していないか、常に意識しながらケアを振り返り、利用者の気持ちに寄り添い、利用者の意に沿わない行動制限を行わないようケアに望む
前回の改善計画に対する取組み結果	<p>「言葉による拘束」について内部研修でも勉強をしており常に意識して利用者の行動制限を行わないケアが概ねできていた。しかし、どうしてもその場で対応ができず他スタッフに頼む事ができない際に「ちょっと待っててください」を使う場合があった。</p>

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	5	6	0	0	11
②	虐待は行われていない	7	4	0	0	11
③	プライバシーが守られている	4	6	1	0	11
④	必要な方に成年後見制度を活用している	2	2	0	7	11
⑤	適正な個人情報の管理ができている	4	7	0	0	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・成年後見制度については理解できているスタッフもいる。 ・身体拘束、虐待について定期的に勉強会を行い、また、毎月の職員会議の際に身体拘束等の有無を確認することでスタッフの意識がしっかりとある為、身体拘束、虐待共にない。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・利用者様の前で個人情報もやり取りを行う場面が時折ある。 ・個人情報は事務所で基本的に管理しているのだが、ホール等で記載をする場合にホールにおいていたまま席を離れた際にご利用者様が台帳等を手に取る場面が見られる。 ・どうしてもその場での対応がすぐにできない際に「ちょっと待ってください」を使うことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・個人情報の取扱いについて定期的に勉強会を行い、正しい取扱についての意識づけをする。言葉による拘束についても身体拘束に関する定期勉強会の際に、重点的に時間をかけて学んでいく。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社メディコープ	代表者	中道 浩二	法人・事業所の特徴	利用者様に「もうひとつの我が家」と思っていただけるよう、利用者様を中心に家庭的な雰囲気の中、おひとりおひとりに合わせた支援方法が提供できるよう、職員一同日々の取り組みを行っています。 利用者様やご家族に24時間安心して過ごしていただけるよう、通いを中心としながら、訪問・宿泊のサービスを適宜組み合わせることで、利用者様やご家族に安心していただいています。 日常的には、利用者様を中心としてケアを提供するため、送迎時や連絡帳でのご家族との情報交換を大切にし、些細な変化も見落とさないように配慮を行っています。				
事業所名	小規模多機能ホーム おあしす南谷山	管理者	松崎 圭司						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	1人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 改善計画はより具体的な内容で、取組みやすいものにする。 評価活動は定期的に実施し、各自が取組みを振り返る機会を作る。 	改善計画を具体的な内容にして取組んだが、取組み内容への意識が足りずに依然として課題として残っている物がある。また、コロナ禍の影響で取組めなかった課題もあった	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みが足りなかつたところは次年度の具体的な方法で取組んでください。 コロナ禍の影響は仕方ないので落ち着いてからでよいので取り組んでください。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み内容として意識が足りなかつた部分に対して具体的に取組んでいく。 コロナ禍の影響で取組めなかつた課題には改めて取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 玄関等の美化活動に継続して取り組む。また、可能なら、利用者様やボランティアの方の協力もお願いする。 『地域の介護相談どころ』としての存在を認識していただけるような工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 玄関の美化活動を継続できており、花の植え替えや掲示物については得意な利用者様にもらうことができた。ボランティアはコロナ禍の影響で対応できなかつた。 「地域の相談介護相談どころ」としての掲示物等を設置するまではいかず、見た目ではわからない外観のままだった。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路向かい側の保育園や病院から見える「介護相談ができる場所」という事がわかる看板を設置してはどうか。 地域に小規模多機能とは何をするところかがわかる工夫をした方がよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の介護相談どころ」としての存在を認識していただけるよう外観について工夫していく。 玄関等の美化活動に継続して取り組む。また、可能なら、利用者様やボランティアの方の協力もお願いする。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> カフェをはじめ、地域の取り組みへの参加を継続し、地域の方々との交流を図ります。 小規模事業所としての存在価値をアピールできるよう工夫を行う 	<ul style="list-style-type: none"> カフェの参加についてはコロナ禍の影響で開催自体が少なく参加する予定であっても急な利用者対応で参加できず、一度も参加出来なかつた。公園掃除や廃品回収には参加できた。 市内の企業向けに「認知症サポート講座」を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 近所の公園等の散歩や駐車場スペースを利用した活動をした方がよいのではないか 地域行事はコロナが収束してからで良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> カフェ等の地域の行事をしっかりと把握し地域の行事にスタッフが参加する事で地域の方々との交流を図っていきます。



D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・『軒下マップ作り』に引き続き取り組み、一人ひとりの利用者様を取り巻く環境について把握し、支援に活かせるようにしていく。 ・利用者様の担当者会議や推進会議、地域の行事等への職員の参加を増やし、地域へ出かける活動の機会を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「軒下マップ」についての周知が十分でなく担当ケアマネージャーが殆ど作成している現状で全職員が取組めるまでは至っていない。 ・担当者会議にはなるだけ時間調整をして参加出来るようにしていったが参加率としては少なく、地域の行事等に至ってはコロナ禍の影響及び、人員の配置が難しかった為、管理者以外の参加がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「軒下マップ」への意識を高める為の具体的な取り組みが必要だと思います。 ・人員は難しい問題であるので調整できる時はしっかり調整して参加することが出来ればよいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「軒下マップ」を定期ファレンスの際に確認を行い、意識付をする事で全職員が取り組み本人を取り巻く環境を把握することで支援に活かしていく。 ・担当者会議の日程を可能であればスタッフが参加しやすい時間帯に調整する事で担当者会議への参加機会を増やす。 ・地域行事への参加の調整を行う
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には、引き続き利用者様の参加協力を依頼し、職員もできるだけ参加できるよう体制を整える。 ・事業所報告では、より具体的に事業所の取り組みが伝わるようにする。 ・必要時事例検討を行い、地域の心配な方々の情報交換や共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議についてはコロナ禍の影響で文書配布での開催となってしまい、前回の改善計画について全く取組むことができなかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書での報告のみであった為、具体的なアドバイスはできない 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には、引き続き利用者様の参加協力を依頼し、職員もできるだけ参加できるよう体制を整える。 ・事業所報告では、より具体的に事業所の取り組みが伝わるようにする。 ・必要時事例検討を行い、地域の心配な方々の情報交換や共有を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練の機会に、運営推進会議メンバーも参加できるように日程調整を行う。 ・消防だけでなく、自然災害についての防災についても学習や意見交換の機会を持つようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練への運営推進会議メンバーの参加調整についてはコロナ禍の影響で参加調整ができなかつた ・自然災害については高潮による水害時の対応について協議する機会を持つ事ができ、他の事業所と連携調整ができないか協議も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「軒下マップ」をしっかりと作り上げて防災の際の協力体制を作り上げる事が必要と考えます。 ・災害時、家族の協力がどこまで得られるのかを考えていたほうがよいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練の機会に運営推進会議メンバーも参加出来るように日程調整を行う。 ・他の事業所との連携調整を進め自然災害時の対応をより実現的なものにする。